

2021年9月21日

各 位

福祉機器を贈呈いたします！

～お客さまへの感謝の気持ちを込めて～

公益財団法人 伊予銀行社会福祉基金（理事長 三好 賢治）は、各施設等へ福祉機器の贈呈を行いますので、下記のとおりお知らせいたします。

この財団は、伊予銀行の創業100周年（1978年）を記念し、地域社会の発展と福祉向上のお手伝いのできればという思いから1976年に設立いたしました。

今後も、社会福祉の充実および次代を担う人材の育成を支援するため、福祉機器の贈呈をはじめ、さまざまな支援事業を行ってまいります。

記

○贈呈先・贈呈日・贈呈場所

(敬称略)

贈 呈 先	贈呈日時	贈呈先住所
アカデミー新居浜	2021年9月30日（木） 午前9：00～	新居浜市高木町2-20アーバンライフビル3F
ぶうしすてむ	2021年10月5日（火） 午前10：00～	松山市木屋町3丁目12-7
ワーク福音寺	2021年10月5日（火） 午前11：00～	松山市福音寺町444-8
グループホームのぞみ	2021年10月5日（火） 午後3：30～	大洲市中村257-1レジデンス中井
エコステーションはるかす	2021年10月6日（水） 午前11：00～	今治市桜井2丁目5-58

○出席者

伊藤 真道（株式会社伊予銀行 常務取締役）

長田 浩（株式会社伊予銀行 常務取締役）

仙波 宏久（株式会社伊予銀行 常務取締役）

中川 幹宏（株式会社伊予銀行 総務部長・公益財団法人伊予銀行社会福祉基金 事務局長）

○贈呈機器等

別紙のとおり

以 上

【本件に関するお問い合わせ】

公益財団法人 伊予銀行社会福祉基金 事務局（担当：福岡） TEL (089) 931-9649

贈呈機器の概要

	贈呈先 (設立・開設年月) (通所者数)	機器名	施設の現状、機器の使用目的、 当財団からの贈呈理由
1	NPO法人サスケ工房 「就労移行支援事業所 アカデミー新居浜」 [新居浜市高木町] (2012/9・2018/11) (23名)	ノートパソコン 3台	本施設は、通所者が一般企業へ就労移行するための支援として、社会に適応できるようSST（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れ、パソコン作業訓練を主に行っている。また、就職後も積極的なサポートにより、不安解消にも努めている。コロナウイルス感染拡大防止のため、テレワーク環境を整備するとともに、性能の高いパソコンで就労支援を行いたい、という要望に応えるものである。
2	特定非営利活動法人 ふうしすてむ 「多機能型事業所 ふうしすてむ」 [松山市木屋町] (2000/12・2011/6) (43名)	ノートパソコン 1台	本施設は、愛媛県等の自治体や、県内外の企業からの依頼を受けWEBサイトの制作や更新、イベントのチラシ・ポスター作成、動画編集を行うとともに、ボランティアとして、パソコン研修や講師の派遣を行っている。コロナ禍による受注件数増加に伴い、パソコン不足に陥っている。そのため、スペックの高いパソコンを導入し、業務効率の向上と更なる受注増加を実現することで、通所者の工賃アップにつなげたい、との要望に応えるものである。
3	特定非営利活動法人 セルプメイト 「ワーク福音寺」 [松山市福音寺町] (2011/9・2013/1) (27名)	冷媒回収機 1台	本施設は、空調機器の運搬設置および回収撤去、これらに伴う冷媒（フロン）回収・有価物の分別作業を行っている。以前、当財団から贈呈した機器も活用しているが、空調機器の大きさによっては回収依頼に対応できないケースが発生している。本機器を取り入れることで受注可能な範囲を広げ、今後の受注増加につなげたい、との要望に応えるものである。

	贈呈先 (設立・開設年月) (通所者数)	機器名	施設の現状、機器の使用目的、 当財団からの贈呈理由
4	NPO法人すたあと 「グループホームのぞみ」 [大洲市中村] (2008/1・2006/10) (12名)	サイクロン式 クリーナー 10台	本施設は、障がいのある方が地域で社会参加できるよう、自立して日常生活を送るための訓練を行っている。支援として外部型共同生活援助事業を行っているが、各居室に掃除機がなく、現在は施設職員が中古の掃除機 1 台を用いて各居室を清掃している。故障の不安と、職員への負荷が重いことから、今回、各居室に掃除機を設置することで、入居者の清掃訓練を行うとともに、各居室を清潔な状態に保ちたい、という要望に応えるものである。
5	特定非営利活動法人 続ける力 「エコステーション はるかす」 [今治市桜井] (2014/6・2016/2) (40名)	乗用草刈機 1台	本施設は当初、中古パソコンのネット販売や今治タオルの検品、チラシ折込等の軽作業が主要事業であったが、近年、「農福連携」にも注力しており、米や野菜等、農作物の栽培・販売も行うようになった。農薬を使用せず、自然栽培を行っており、日々の手作業での除草は体力的な負担が大きく、除草に割く時間も長くなっている。今後、農地の拡大や収穫量増加を目指すなか、効率的に農地を管理したい、との要望に応えるものである。
合計 5 先			

以上